



取材班も 体験!!

「くにかぜⅢ」に搭乗しました!

機材がいつぱいの機内 揺れる機体の中での写真撮影

今回は「くにかぜⅢ」の撮影飛行に同乗しました!

機内の中央にはデジタル航空カメラと航空レーザ測量装置が搭載され、後方には映像伝送装置などが設置。床面には機器類をつなぐコードが這い、機材が入った状態での機内では移動しにくい状態です。通常、撮影は2名体制で行われます。今回搭乗するのは、機動撮影係長の畠山と係員の西井です。

当日はあいにくの空模様。天気が良ければ伊豆大島まで飛行する予定でしたが、今回は横浜上空までの飛行となりました。調布飛行場から30分ほどで横浜地域の高度300m上空に。輸送用大型セスナとはいえ、旋回時は、旅客用飛行機とは比べ物にならないくらい体全体が斜めに傾き、自然と傾いた側の足に力が入ります。



斜め写真撮影の様子。撮影場所などの記録をつけていく(左:西井 右:畠山)



上空300mから見た横浜港大さん橋国際客船ターミナル付近(広報課撮影)

加えて、上空の気流で飛行機は小刻みに上下に揺れて安定しません。そのような中で、斜め写真撮影がスタート。撮影用の小窓を開けデジタルカメラを構え、撮影を行っていきます。一人が撮影しているとき、もう一人は撮影場所などの記録作業にあたります。また、真上から撮影する垂直写真撮影時は、撮影された画像を確認したり、航空レーザ測量のオペレーション作業を行っているとのこと。

1時間半ほどの飛行で今回の撮影は終了しました。

撮影飛行では、最長6時間は降りないままということもあるそうです(当然セスナにトイレはありません)。また緊急撮影の際は、刻々と変化する被災地の状況を確実に撮らなければなりません。撮影に失敗は許されないと緊張感の中で、業務を果たしているのです。



日本の国土の形を遊びながら体感 「地図と測量の科学館」

国土地理院本院に併設しており、地図や測量に関する歴史、原理や仕組み、新しい技術などを展示しています。屋外の「地球ひろば」には測量用航空機「くにかぜ」の初号機や地球の丸さなどが実感できる縮尺20万分1の「日本列島地球体模型」の展示も。入口を入ると赤青メガネで海域を含めた地形が立体視できる縮尺10万分1の巨大な日本地図(3ページ)があり、

国土の広がりを感じられます。子どもたちには画面に触れると新旧の地形図や空中写真が

閲覧できる「タッチず」や、クイズやパズルで楽しみながら学べるコーナーなどが人気。美しい古地図の展示や企画展なども随時開催されており、幅広い年代で楽しめます。

◀ベハイムの地球儀：現存する世界最古の地球儀(レプリカ)



 国土地理院「地図と測量の科学館」 <http://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>